

京の旬な伝統行事

何につながるの？

地産地消でCO₂の削減



昔から京都では四季折々さまざまな行事が行われ、そこでは地元の旬野菜が重要な役割を果たしとるんじゃ。昔から続く行事には、その時期に無理なく手に入るもので健康に過ごすための知恵が詰まってる。いわば、**環境と健康にやさしい生活スタイルのお手本といえるんじゃ。**



京都の伝統行事と地元の旬野菜を同時に味わえるなんて、とっても「おいしい」行事だね。今月は何かあるかな？ ぜひ参加してみよう！



聖護院だいこんを食べに行こう！

加持祈祷された「聖護院だいこんの炊いたん」を食べると、病気や災難の予防になるという弘法大師の教えにより、千本釈迦堂では大根焚が催されるよ。聖護院だいこんは煮崩れしにくく、甘くて苦味がないので京のおでんには欠かせない野菜。祈祷を済ませ、梵字の書かれた生大根も持ち帰り用として販売されているよ。

冬 といえば…

大根が美味しい季節。旬の大根を食べる行事にしてみよう。12月7～8日に千本釈迦堂（上京区）で大根焚が行われるほか、12月9日～10日に了徳寺（右京区）で鳴滝大根焚が行われるよ。

冬の行事 こちらもオススメ！

- 1月7日 七草神事〈御香宮神社〉
- 1月15日～31日 小豆粥で初春を祝う会〈妙心寺東林院〉
- 2月初午の日 初午大祭〈伏見稻荷大社〉

秋 といえば…

農作物の収穫の時期。旬の野菜でつくったすいき御輿を見に行ってみよう。10月1日～5日に北野天満宮（上京区）ですいき祭が行われ、4日にはすいき御輿が巡行するよ。

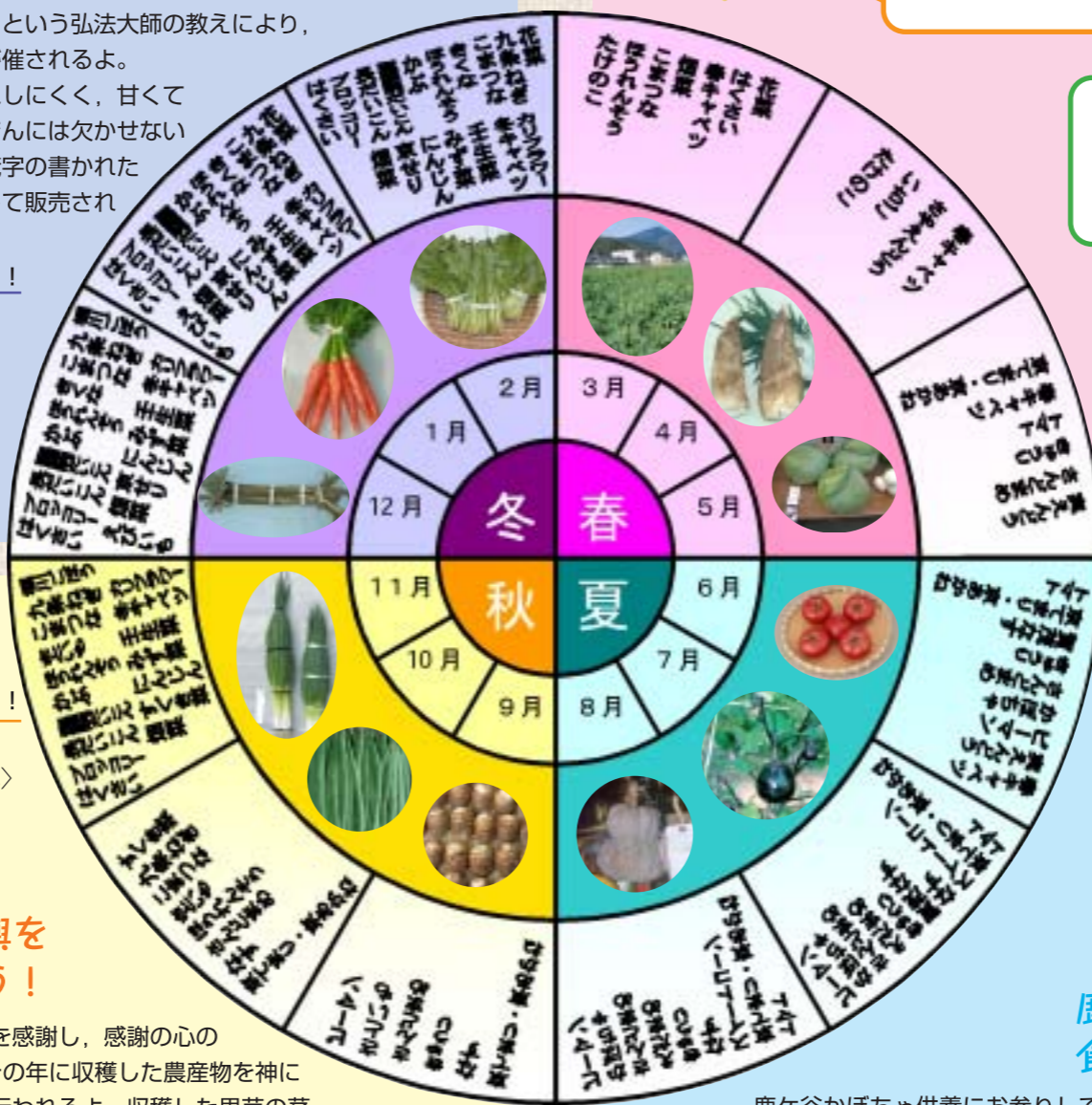
秋の行事 こちらもオススメ！

- 9月中秋 観月の夕べ〈大覚寺大沢池〉
- 11月1日 亥子祭〈護王神社〉



すいき神輿を見に行こう！

秋の実り、収穫を感謝し、感謝の心のしるしとして、その年に収穫した農産物を神に供える感謝祭が行われるよ。収穫した里芋の茎、つまり瑞穂で御輿の屋根を葺き、柱や鳥居、瓔珞などは、その年に収穫した野菜や穀物、あるいは京の名産である湯葉や海苔などの乾物類で飾り立てられているよ。その御輿は祭の翌日には解体され、解体された赤すいきは関係者に配られ食べられるんだって。



春 の行事 こちらもオススメ！

- 3月3日 流し雛の儀〈下鴨神社〉
- 4月第二日曜日 やすらい祭〈今宮神社〉
- 5月3日 流鏝馬神事〈下鴨神社〉
- 5月5日 競馬会神事〈上賀茂神社〉

夏の行事 こちらもオススメ！

- 6月30日 夏越祓〈市内各神社〉
- 8月16日 五山の送り火〈大文字山他〉

夏 といえば…

かぼちゃ？ と思う人も多いはず。冬至にかぼちゃを食べる習慣があるけれど、実はかぼちゃは夏野菜。鹿ヶ谷かぼちゃを食べに行ってみよう。7月25日に安楽寺（左京区）で鹿ヶ谷かぼちゃ供養が行われるよ。

鹿ヶ谷かぼちゃを食べに行こう！

鹿ヶ谷かぼちゃ供養にお参りして、「かぼちゃの炊いたん」を食べると病気にかからないと言われてるよ。「夏の土用の頃に鹿ヶ谷かぼちゃを供養すれば、万人が病から救われる」というお告げを受けた真空益随上人という僧が、仏前に供えて供養したことが始まりで、それ以来現在まで200年以上続く伝統行事なんだって。



【参考文献】 京の野菜記(林義雄著・ナカニシヤ出版)、歳時記 京の伝統野菜と旬野菜(高嶋四郎編著・トンゴ出版)、現代にいづく京の伝統野菜(菊池昌治・誠文堂新光社)、京都・観光文化検定試験公式テキストブック(京都商工会議所編・淡交社)